

文久元年酉七月
(義延)

和宮様御下向二付御修復向書上帳

鵝沼宿

本陣問屋

桜井吉兵衛

乍恐奉御願上候御事

一御上段 武畠台

高麗縁付

但床大面疊共

御次之間 八畠

一御入側 五畳

一
御三
間
八疊

一
御
人
傳

一
御文庫
一
御書所
一
八

一
御膳房
八

一 徒 精 珍 間

一 律者所

武ヶ所反御番所是者長九尺梁の旁間置建具共「

取建奉御願上候

一三ツ道具立

御湯殿御西便所
但新規御取建奉御願上候

一御次通り湯殿雪隠共三ヶ所

但破損取繕イ

壱軒者御女中御駕籠置所
但長拾四間梁五間

一表門左右高塀長拾式間、腰板張替、壁塗直し

一御上段初御次通り御座敷廻所々釣庇之分葺替

一店障子 拾本 是者新規御取建ニ相成候

一琉球表 式拾五畳 但黒「」台所、御座敷ニ相成候分

一店板張替之所 畿式拾畳 小田井表紺縁り付、新規御取建之分

但是ハ御役々衆様

御席取ニ相成候分

一御殿向初御次通障子張替、所々ニ而悪処五拾本張替

一同断初御次通唐紙、所々張替取繕イ共五拾本

一御拔道通り橋式ヶ所取繕ひ

一御上段并ニ御次通之「」

一見苦シキヶ所々々上塗取繕ひ

一同断屋根差瓦ヶ所々々取繕ひ、坪メ五拾坪計り

一御上段二重天井拾畠間新規張替、但シ松六分ニ而竿縁垂木ニ而

御取建

一御玄関江通り縁側取繕イ

一御次通り八畳間縁側壱ヶ所

一御上段初都而床之分所々ニ損シ取繕イ、坪メ式拾五坪計

一御仮小家三ヶ所

内

壱軒者御乗物置所

但長五間梁三間

壱軒者御道具置所

但長拾間梁五間

右者今般 和宮様御下向も被為在候哉之趣ニ而、先年有君様并ニ
寿明君様共兩度 御下向之節々御振合取調候様被 仰付奉畏候、
若此節先年御振合ニ而御通輿茂被為在候ハ、、「」復被
成下候ハ、如何様共 御旅館相勤候哉ニ奉存候、依之乍恐奉書
上候、以上

鶴沼宿

本陣問屋

桜井吉兵衛

夥敷入用ニ付、是ハ亦々御歎願奉申上候得共、此段御達奉申上候、
以上

ノ 大三千九百四十了

小五千八百了

内訳 大廿匁紙千三百五拾了

小五匁紙四千了

差引テ 大二千五百九拾了

小千八百了

不足

一七輪 十ヲ

壱軒

式ツ

是ハ有合之竈無之候ハ、別段壱尺程之釜掛り候様築立置可

一手附鍋

申候

是ハ御砂張亦ハ銅ニ而も壹尺式寸位之鍋用意

一上糖 四五升程

一新敷手桶

五ツ程

一椀洗桶

大振 十程

一栗木焚附柴

五拾束程

一池田炭

内訳

さくら炭 之内 細キ方壺式俵

琉球縁無之廿帖
縁付三拾式豊

同半豊式ツ

関門 錠鍵 式ツ

〔東西番所〕

豊五拾八豊

内 縁付 三十式豊

琉球縁遣し 廿豊

同半豊式ツ

閑門錠鍵 式ツ

一

乍恐奉差上候御請書之事

一白米 三拾八石

今般 和宮様御下向以前、当宿江御昼夜ニ付蜂屋村より前顕之通

御藏米白米ニ為搗立、蜂屋村より御廻シ御下渡し被成下置難有仕

合奉存候、尤搗貢之儀ハ御談シ之通、当村より出金可仕候、尤其

節請書可差上之処、彼是延引候段御断旁御請書可奉差上候、以上

御請書□□取建奉申上候、以上

右之通體ニ預り奉申上候間、御差団次第可奉差上候、以上

西

十一月八日

う沼宿

桜井吉兵衛

弓場勘三郎様

御陣屋

西十一月十日

本陣問屋

鵜沼宿

〔切紙二点挿入〕

下 ケ 札

乍恐奉差上候御事

一東西宿端御番所

豊五拾八豊

内訳

乍恐奉差上候御請書之事

一三ツ道具 三通

但台共

一鉄砲台 大小 五ツ

一引龍御幕 三張

一小屏風 三ツ

足共

ノきぬやニ預ケ置申候

右之通慥ニ御預り奉申上候、御差図次第奉差上候、以上

鵜沼宿

問屋 桜井吉兵衛

西十一月

五両三分式朱ト

八両壹歩三朱ト

壹匁九分二厘

大久手

五両五分七厘 太田

式厘

八両壹歩三朱ト う沼

御嵩

五両式歩壹朱ト

三匁七分式厘

武厘

八両壹歩三朱ト

太田

五文ちらし 壱朱ト式百文家た平
「四十式兩式歩三朱ト」

式匁五分

五両式歩壹朱ト

三匁七分式厘

武厘

八両壹歩三朱ト

太田

五両三分式朱ト

三匁七分式厘

武厘

八両壹歩三朱ト

太田

十八文あま酒 三十二文すし

六文船ちん 四十八文ト八文大上分

式匁五分壺厘

大井

八両壺步三朱ト

式匁九分七厘

中津川

一手拭懸ヶ七十八
残而 八十四箱

内 甘壺箱

右同断

残而 五十七箱

乍恐御達旁奉願上候御事

一茶呑茶碗千百拾六

内 五百拾六箱

是ハ破損并紛失之分

残而 六百箱

一火鉢式百箱

内 五十六箱

是ハ右同断

残而 百四十四箱

一土瓶百箱

内 四十六箱

是ハ右同断

残而 五十四箱

一手水鉢三十

内 五ツ

是ハ右同断

残而 武拾五箱

一杓子

一刀掛百箱

是ハ破損并紛失候分

内 残而 八十九

一たは粉盆五十

内 十八箱

右同断

一樽百箱 残り 三十式
内 十六箱

右同断

西

鶴沼宿

年寄 坂井伝吉

十一月八日

同断 山田旧吾

問屋 桜井吉兵衛

同断 野口定兵衛

弓場勘三郎様

御陣屋

是ハ当宿御詰太田御陣屋より之仕理役

御かり 寺前金吾様江差上候事

〔表紙〕
太田御陣屋より渡り候道具之分

鵜沼宿手控

一

御本陣入御道具類等之覚

一御前御台子
附属之品共

一御前半丸行燈
但白木

御泊式挺ツ、

火入灰吹きせる、上多葉粉共

一火家附台火鉢

御泊式ツ、御昼式ツ、内壱ツホヤなし

御小休三池謡坂茄子川共壱ツ宛

御泊十五挺ツ、

内七丁朝昆煎者八切付

一燭台

一橋本殿控席半丸行燈 同壱挺宛

附属之品共

一手燭

右同断十六宛

一御次台子

御泊、御昼、御小休式飾ツ、
附属之品共

一御上草履

但奉貫鼻緒

御泊三足、御昼、御小休三ツ池
謡坂茄子川共式足宛

一上絵茶碗

御泊、御昼、御休、三ツ池
謡坂茄子川十六宛

一御次中抜草履

御泊、御昼五十足、御小休三ツ池、謡
坂、茄子川共廿八足宛

一茶巾

一金敷

一炭取

一茶杓

一三ツ羽

一三方

一榮螺熨斗

右同断

御泊、御昼、御小休茄子川共壱ツ宛

右同断

一御前屏風

御泊四双、御昼、御小休、三ツ池謡坂
茄子川共三双ツ、

御泊三十把御昼御小休

一多葉粉盆

三ツ池謡坂茄子川共、三十式ツ、

御泊式挺ツ、

但きせる壱面ニ式本ツ、

御泊式ツ、御昼式ツ、内壱ツホヤなし

御小休三池謡坂茄子川共壱ツ宛

御泊十五挺ツ、

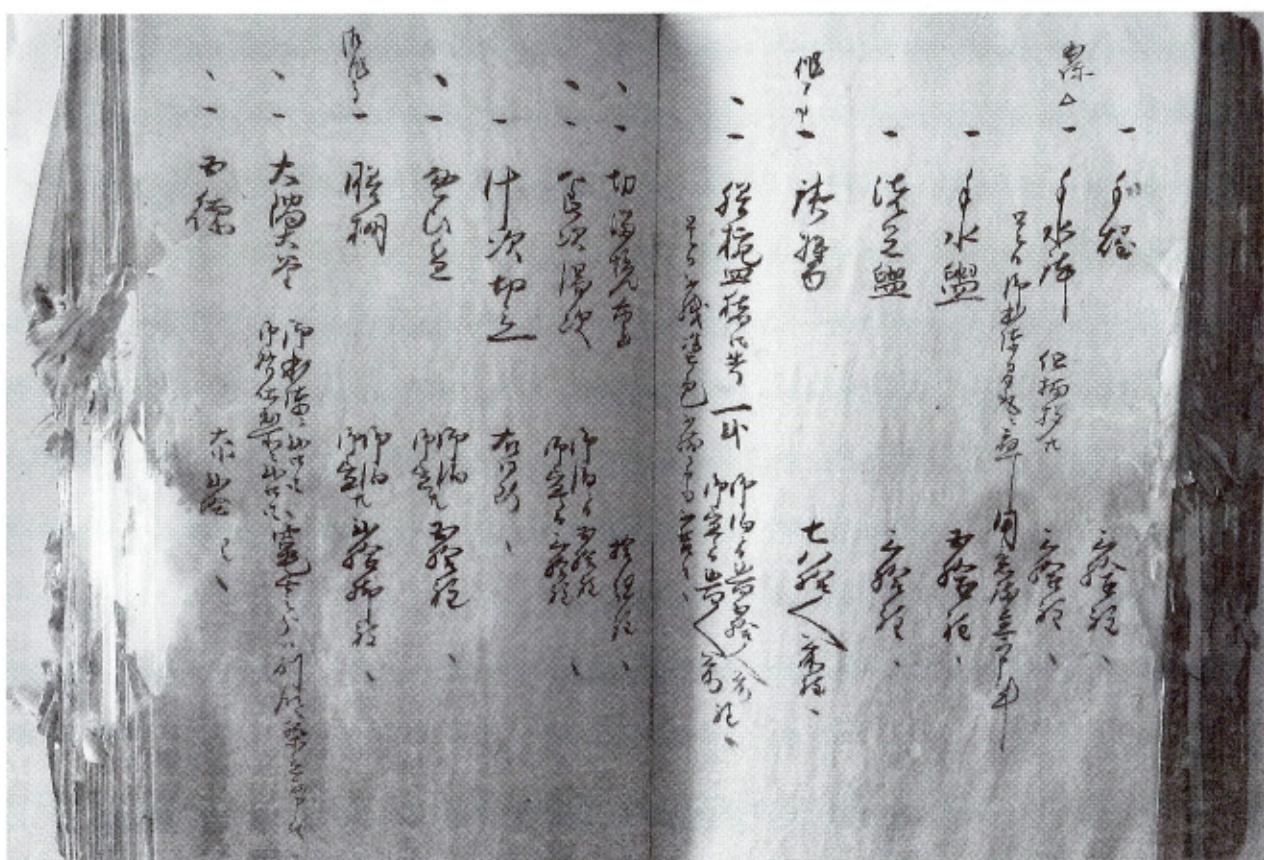
内七丁朝昆煎者八切付

一汁次切立
以上

巾

藤市

一 汁次切立	右同断	(朱書)
一 通ひ盆	御泊共	五拾程、
一 膳棚	御泊共	式拾脚程、
一 大鍋大釜	御本陣ニ式口ツ、	竈無之分ハ別段
一 御賄仕出所ニ式口ツ、	築立可申候、	(朱書)
一 五徳	大小 式拾わ、	(朱書)
一 水桶荷桶柄杓共	式拾荷程、	(朱書)
一 大俎板	十枚程、	(朱書)
一 燒物燒火鉢	十程、	(朱書)
一 摺鉢	十程、	(朱書)
一 石臼	三程、	(朱書)
一 掛燈かい	十荷程、	(朱書)
一 魚台	御泊ニ而壱石程	(朱書)
一 上々白米	御宿ニ而五斗程	(朱書)
一 右品所々有合集置可申候	御宿ニ而壱石程	(朱書)
一 本陣	御宿ニ而五斗程	(朱書)
一 同	御宿ニ而壱石程	(朱書)
一 上白米	御宿ニ而壱石程	(朱書)
一 鳥魚其外御料理物	御宿ニ而壱石程	(朱書)
一 上々糲味噌、	御宿ニ而壱石程	(朱書)
一 上々塩酢醤油、	御宿ニ而壱石程	(朱書)
一 上酒、	御宿ニ而壱石程	(朱書)
一 美淋酒、	御宿ニ而壱石程	(朱書)
一 燒油、	御宿ニ而壱石程	(朱書)
一 但菜種油	御宿ニ而壱石程	(朱書)



触書披見之上別紙帳面江請印致、不限昼夜刻付を以繼送、板橋宿
并江戸表四番町民部屋敷、亦ハ淺草元鳥越清一郎屋敷江可相返候、
以上

一燒心 (朱書)

一薪 (朱書)

一炭 (朱書)

一魚串 (朱書)

一蠟燭 (朱書)

右品々御買上被成候間、御泊御休所ニ集置可申候、

一給仕人 但袴着用御泊休共三拾人ツ、

内五六人ハ料理致シ候者差出可申候、

一下働之者 同断

式拾人程

(朱書)

一奇麗成川砂 但焼物火鉢二入、

一松明 (朱書)

是ハ御賄御用掛之者并御用長持諸道具類共壹式三組

分ニ而翌日之御休泊江順々□越候付、夜越ニ相成候

間、宿々ニおるて操越里數等見計、松明数百程用意

致可置候、先年操越夜越之節松明用意無之宿々も有

之、差支御座候「」不差支様取計仕有之場所者

猶更之儀、間之村方ニ而も取計用意可致置候旨、前

後宿方より通達可致候、

(朱書) 百式三拾人前程

一木綿夜具

内六拾人前程上通不□付分

是ハ御泊宿ニ而用意致シ、御旅館江差出候積可相心
得候、尤多分之儀ニ付宿方ニ而難調分ハ、領主役場
江申立差支無之様集置可申候、

砂張ニ而茂壱尺式三寸位

右者当月下旬 和宮様就御下向御泊御休之御本陣ニ而書面之通可
有支度候、尤右之外ニ茂心付候品有之候ハ、用意致置可申候、是

西十月六日 石原清一郎

多羅尾民部

大津より

草津迄

中山道

守山より

夫より

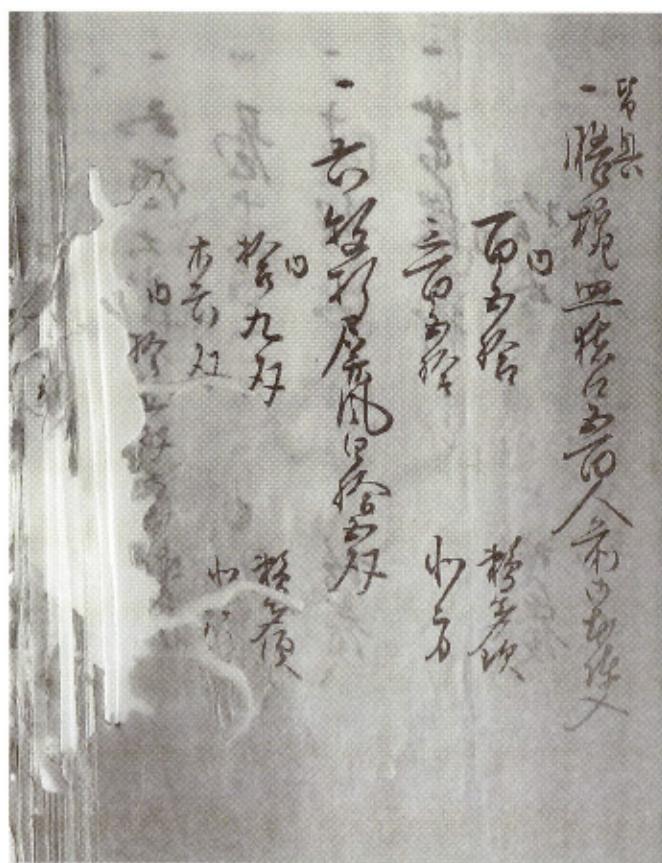
板橋迄

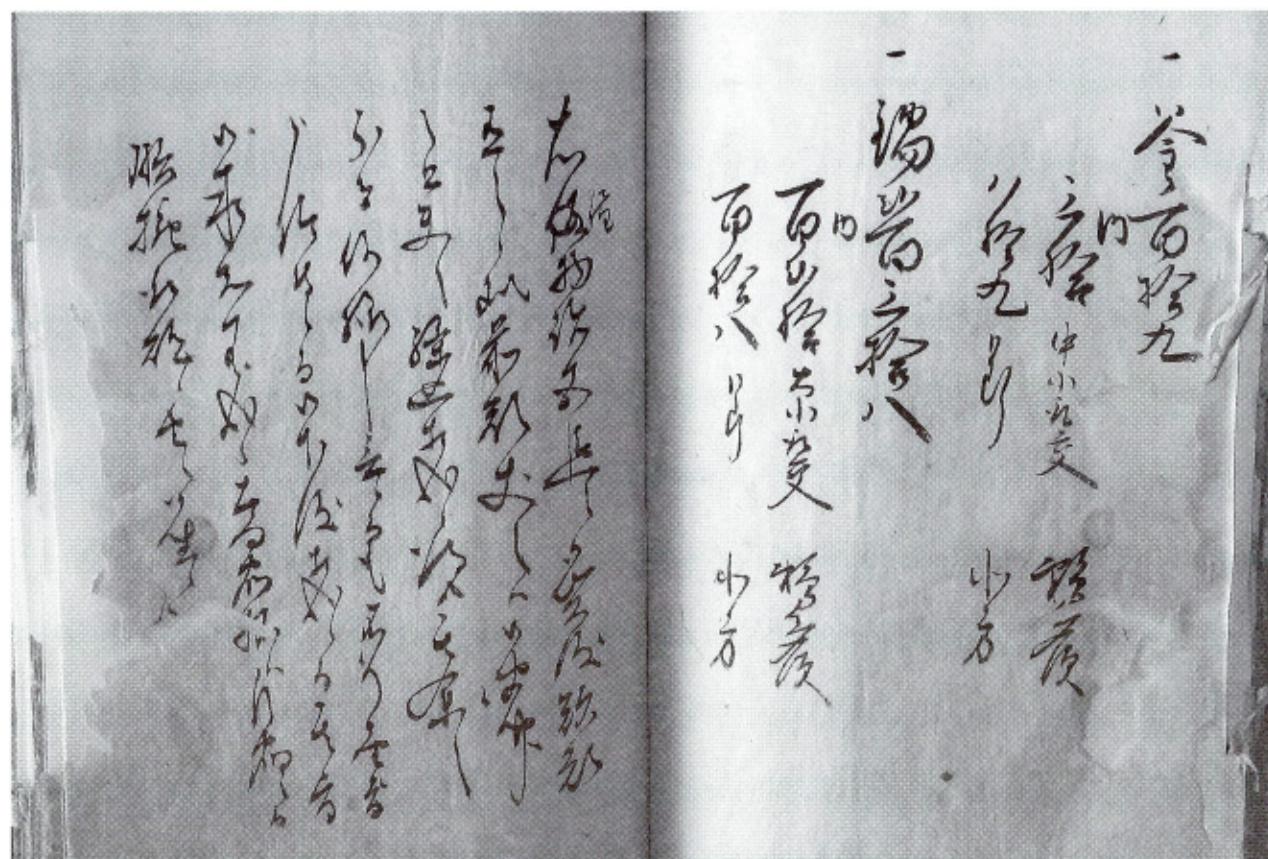
右宿々

名主

年寄

一六枚折屏風四拾五双	三百五拾	内	北方	鶉多須
拾九双	廿六双	内	北方	鶉多須
一五德大小廿	一台十能三	内	御本陣入	拾五双御本陣入
〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕
一十能五	一藥罐四拾	内	同断	同断
〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕
一多葉粉盆百五拾	廿五	拾五	同	鶉多須
一銅火鉢式百拾	百十	内	同	鶉多須
四拾	〔御本陣入〕	内	北方	北方
〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕
五拾六	百五拾四	内	北方	北方
〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕
一塗飯次杓子共三百四拾六	〔内〕	〔内〕	〔内〕	〔内〕
百	〔御本陣入〕	〔御本陣入〕	〔御本陣入〕	〔御本陣入〕
内	〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕	〔朱書〕
鶉多須	北方	北方	北方	北方





式拾
〔御本陣入〕
鵜多須
北方
〔同断〕

一釜百拾九
内

三拾 中小取交

鵜多須

八拾九 同断

北方

一鍋式百三拾八

内

百武拾 大小取交

鵜多須

百拾八 同断

北方

右借物諸色追々御貸渡歎願有之候処、前顯丈之ハ御聞濟之上、夫々
繰込相成候得共、其余之分者何様申立候而も不行届之旨被仰付候
間、御下渡相成候間、其旨御承知相成候、太田宿杯ハ自宿ニ而膳
椀取賄候由ニ御座候

覺

縁取

一ノ三百九拾四枚

内

是者天主拝殿通日雇支度所ニ有之候間、右

二取用申候

八十六枚

是者名々人家通田雇夫々御半庄ニ不致候而
御下宿向
ハ不行届、追々御割渡し分

式拾八枚 置新規分引□縁取替り□相渡し

七拾弐枚

是者□々板敷并ニ新規床板入取り「」

方江相渡し候分

差引而 拾四枚残り

一新床置式拾八帖

内

拾四帖

九帖

四帖

五帖

差引而 四畳 不足

大津御代官様御旅宿江相廻し

御小人目付割宿江

跡部様御宿江相廻し

京方御料理席江相廻し

今度 和宮様御下向之節、御本陣御手当品之内、別紙之分者宿賄ニ相心得、夫々令用意御不都合無之様可致候、依テ右壹通相渡候、書面之趣承知之上宿下ニ本陣々々致印判、早追ヲ以順達納宿より早々可返候

西十月廿八日 太田陣屋

落合宿

中津川宿

大井宿

細久手宿

御嵩宿

太田宿

伏見宿

鶴沼宿

一明ル障子 拾本

内

六本

御小人目付様江当ル

四本

「」付様御旅宿江

過不足取調奉申上候間此

右之通御座候間此段取調奉申上候、以上

御賄御代官宿触之外手當可致分

一毛氈式枚ツ、

九ヶ宿

是ハ橋本□□所様江可差出分

右宿賄ニ可致事

一火袋火鉢五徳共式ツ宛 同断

右宿々江相渡候「」内ニ而見繕用意可致事

一硯

御昼泊六ヶ宿

一土瓶式拾ツ、

同断

一炭斗

同断

御昼泊宿賄分写

一

〔表紙〕

早追

右宿賄ニ而可致手当事

一巨縫布團

御泊三ヶ宿

右ハ御本陣江拾五ツ、御本陣外江割出相成候、女中下宿江
式ツ宛、置巨縫出来御作事方より相渡筈ニ付、右ニ相用候分
可致手当事

御賄御代官宿触面ニ而員數増手當可致分

一火鉢百程

「」ヶ宿

一膳椀皿猪口五百五拾人前

」泊三ヶ宿

右ハ借物諸色之内より相渡筈、兼而申請置候外益之分宿々惣
体江相渡候、借物之内を以可致用意事

御賄御代官触面之内、宿賄ニ可致分

一鉄醤水七八拾人前ツ、御昼泊六ヶ宿

一サハリ鍋 口壹尺壹式寸已下

大小見計

同断

一切溜 但手附銅鍋等取交候而も宜

右之分都而宿賄ニ可致事

一相渡候外不足之分 但菜種油

今般御見分御□□替ニ付

但境重ハ不取調筈

大急通用

一下手水鉢

□ヶ宿

柄杓共

一洗足盥 御作事方ニ而出来

相渡候外不足之分 御泊三ヶ宿

一膳棚 同断

一水荷桶 同断

一釣台 同断

一焼物焼火鉢 同断

一摺鉢十程ツ、

一石臼三程ツ、

一上々白米 御泊壹石

御昼 「」

同断

一上々白米 御泊壹石

御昼 「」

同断

一上白米 御泊壹石

御昼壹石

同断

一燒油

但菜種油

一燒心

一薪

一炭

一魚串

一松明

一松坂炭相渡筈

一

一

一

同断

同断

同断

同断

同断

同断

一御中膳七人

一御小性三人

一御祐筆三人

一御服間武人

✓

右京方御宿々之儀、御両便所御渡縁無之候而者難相濟御方様方ニ付、御昼泊「」とも、若御両便所渡り「」御宿有

之候ハ、御修復相成「」宿ニ御出張御役人様「」

願出可被成候、右者 福岡寛蔵様より御内意有之候間、御通用申

上候宿々早々御順立可被成候、已上

西十月十八日戌未申刻

中津川宿

茄子川より

池田九郎兵衛

鵜沼迄

御問屋様

覚

然ハ明十六日御賄方式番組川並新助様被罷越、今般 御下向之節御膳所之義御留人數杯御触有之候儀ニ付、可成丈本陣内ニ而煮焚等致候様致度旨、尤兼而御宿割杯夫々御差□有之候儀ヲ違度致候

「」候得共、格別欠隔候場所より御旅館江御持込ニ相成事ニ而ハ、自然雨中等之砌甚以不都合之事ニ可有之、賄ニ而ハ精々本陣内ニ而煮焚相成候程、御取締有之候、乍併何れ之義都合難相成向江是非も無之事ニ候得共、右之辺御銘々之御含被置、御催促可被成候、且亦御膳所と御賄盛立所江隔仕切無之、一円ニ相成候而ハ、自然御膳所御役人様方より不都合之御沙汰可有之候も難計、万一彼是不都合之御沙汰有之候節ハ、屏風ニ而仕切相隔

申候、御心得御含被可下候、暫是又御締ニ御座候、於御賄方聊差支候儀無之候得共、御膳所御掛り之御役人様方多之御差支ニ可相成哉、相渡趣御談事御座候

右之段、御心得也、下拙より御通達可申様御頼談之有之候ニ付、未夕嚴申上候、夫々御披見之上、御賄達可被下候、早々頓首

守山宿本陣

十月十七日 宇野忠右衛門

武佐宿より

鵜沼宿迄

御本陣中様

猶々拙書義内□□□間出来、是ヲ御賄盛立候所ニ相成、尤右続キニ御膳所并洗場并屏築場有之候ニ付、大鍋之義ハ屏風ニ而仕切可申候得者、且隣りニ人馬継問屋場有之、是者御□□席相成、右裏二人足新宅有之、是ヲ御賄御用達場□相成、右御用達場ニ而御料理并ニ煮焚□□持込ニ相成候ニ付、畢竟宅内同様之事ニ相成、唯々唯々御用達場ニ而、御膳煮焚新規ニ出来、鍋火を湯わかし候様外ニ菜物類、是ハ新規煮焚鍋哉、是ハ出来、右ニ而都合宜敷様御談し御座候

人馬繼所「」相成候、両所は御本陣之内別立其外之御役之様方御料理次載之事ニ相成候様御座候、御賄御用達場は煮焚仕立所ニ御座候、御膳盛立所ハ膳立所ニ御座候、回し早ク申候、兼而御子細も可有之御座候得共、□□ト申上候

「」儀ハ此□申候ニ者廿三日頃ニも、又ハ廿五日頃ニも申事御座候、尤不取留候事ニ候得共、聞及儘任元席内之申上候、御地取御無用之事御座候、以上

前文御

」

和宮様弥^{いよいよ}当月廿日御発輿之御触面御差出シニ相成、然ル所御賄盛立場ハ御用意在之候得共、右焚出シ場所之儀御手當無之、宿も無御座候様奉存候ニ付、右ハ御本陣隣り極々本陣近ニ而御長持三拾棹、外ニ壺斗鍋四ツ、式尺五寸大釜壺ツ、尤工士とも御用意可然奉存候、其節ニ至リ御手當方御不都合ニ奉存候、當「」も御同様ニ御座候、此段拙「」申達□早々、

已上

十月十七日

大津宿本陣

大塚嘉右衛門

守山宿より

問屋御役人中様

〔書類〕

十月日

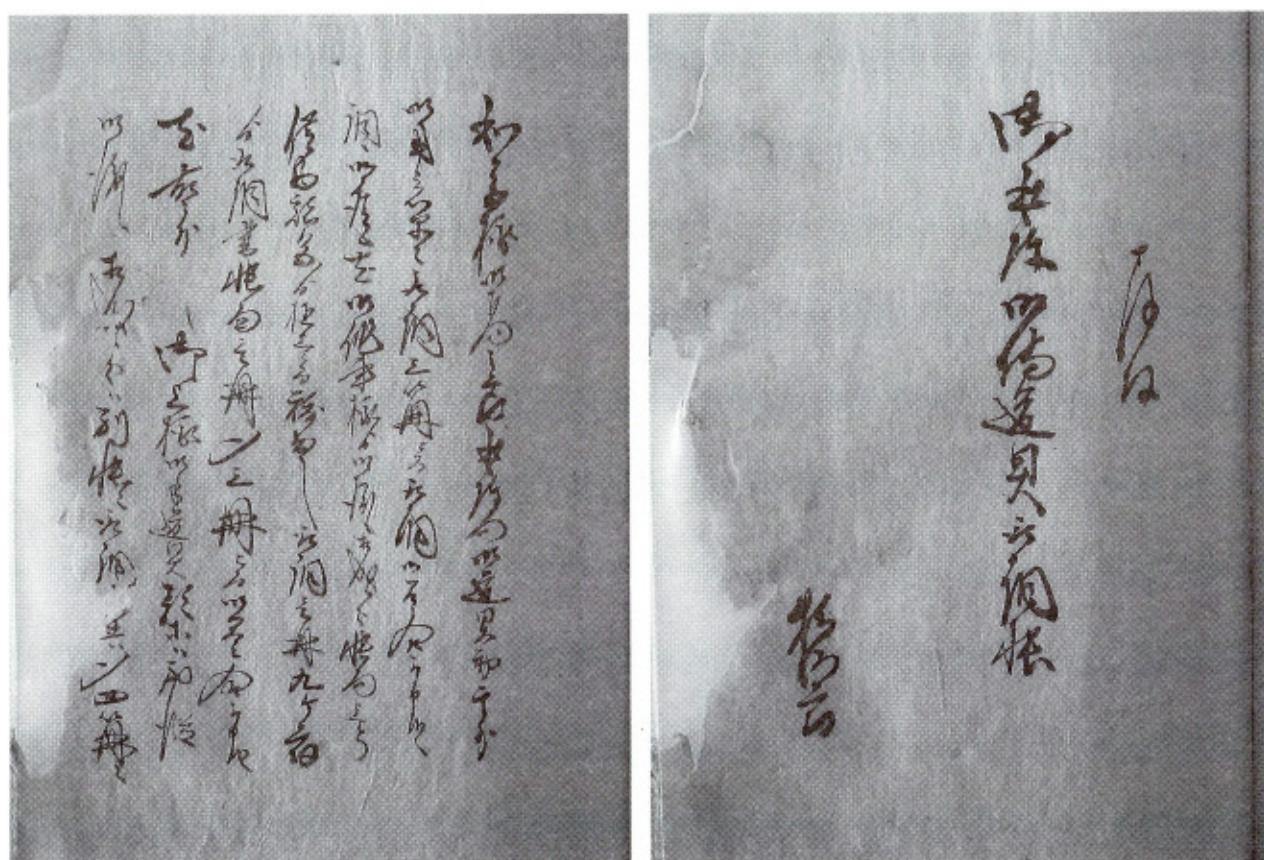
御本陣御備道具取調帳
鵜沼宿

一

和宮様御下向之節、本陣向御道具初其外御用意品々取調三箇^{さく}ニ而取調、御間ニ合可申候之調ニ御座候、尤御作事様より御渡し相成候分、帳面壺ツ、借物諸色より極上ニ而抜出し取調壺冊、九ヶ宿より取調書帳面壺冊メ三冊ニ而御間ニ合可申由、尤右之外 御上様御手道具類等ハ別段御渡し相成候分ハ別帳ニ取調□共、メ四箇ニ而取調可申候、以上、依之書付□認分記録相残シ申候、以上

但シ先ニ取調置候分ハ先々不用ニ相見江申候

尤先取調書ハ本陣おる而ハ至而模通宜敷候



壱寸

丸太

一六ツ 磨小坪

〔表紙〕 西九月

御本陣諸色書上帳

九ヶ宿之内

六ヶ宿

鶴沼宿

〔表紙〕 吉兵衛控

一

乍恐奉申上候御事

一中奉書

六ヶ宿共壱ヶ宿二付

御昼三ヶ宿 鶴沼宿
御嶽宿 大井宿

三状ツ、

御泊三ヶ宿 太田宿
大湫宿 中津川宿

右同断

一小奉書

壱ヶ宿二付

三状ツ、

一上杉原

壱ヶ宿二付

八状ツ、

一手形紙

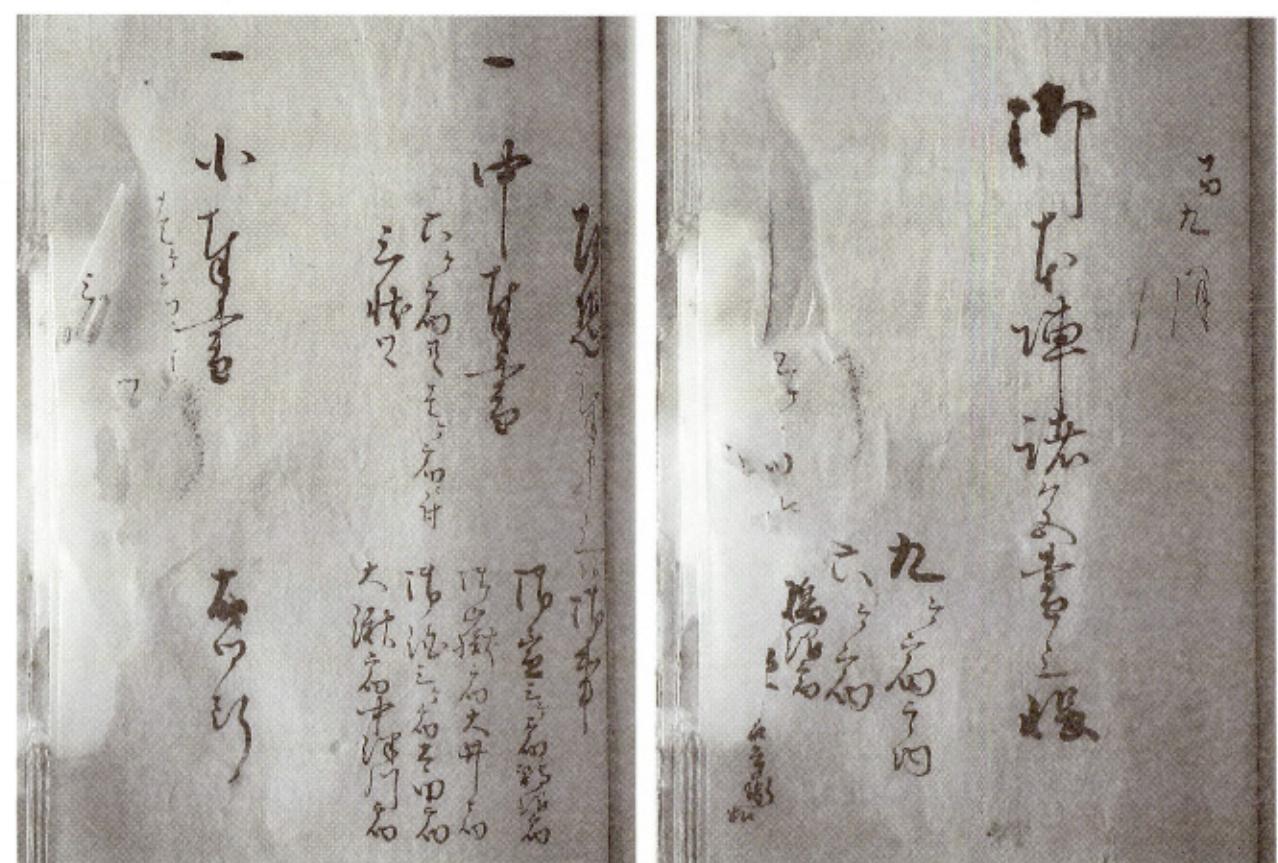
壱ヶ宿二付

八状ツ、

一上直紙

壱ヶ宿二付

右同断



一中直紙	式束ツ、	右同断
壱ヶ宿ニ付	式束ツ、	右同断
一大坂上半紙	壱ヶ宿ニ付	右同断
一大坂中半紙	式束ツ、	右同断
壱ヶ宿ニ付	三束ツ、	右同断
一上煙草	壱ヶ宿ニ付	右同断
一白木状箱	式百匁ツ、	右同断
□ヶ宿ニ付	武□ツ、	右同断
一藁草履	御泊壱ヶ宿ニ付	右同断
御泊壱ヶ宿ニ付	三百枚ツ、	右同断
百足ツ、	御屋壱ヶ宿ニ付	右同断
御屋壱ヶ宿ニ付	百五拾枚ツ、	右同断
五拾束ツ、	壱ヶ宿ニ付	右同断
一縁取	五拾枚ツ、	右同断
御泊壱ヶ宿ニ付	壱ヶ宿ニ付	右同断
百五拾枚ツ、	三間繩五拾筋ツ、	右同断
御屋壱ヶ宿ニ付	一貝杓子	右同断
五拾束ツ、	壱ヶ宿ニ付	右同断
一縁取	五拾本ツ、	右同断
御泊壱ヶ宿ニ付	一摺鉢	右同断
百五拾枚ツ、	壱ヶ宿ニ付	右同断
御屋壱ヶ宿ニ付	拾ヲツ、	右同断
十五ツ、	一大坂焼火鉢	右同断
〔ツ、	御泊壱ヶ宿ニ付	右同断
一木箸	壱ヶ宿ニ付	右同断
三百前ツ、	御泊壱ヶ宿ニ付	右同断
一蠟燭	「」懸「」	右同断
一筵	御泊壱ヶ宿ニ付	右同断
御泊壱ヶ宿ニ付	三百枚ツ、	右同断
御屋壱ヶ宿ニ付	百五拾枚ツ、	右同断
一大桐油	壱ヶ宿ニ付	右同断
五拾枚ツ、	一細引	右同断
五拾枚ツ、	壱ヶ宿ニ付	右同断
五拾枚ツ、	三間繩五拾筋ツ、	右同断
五拾束ツ、	一貝杓子	右同断
五拾束ツ、	壱ヶ宿ニ付	右同断
一縁取	五拾本ツ、	右同断
御泊壱ヶ宿ニ付	一摺鉢	右同断
百五拾枚ツ、	壱ヶ宿ニ付	右同断
御屋壱ヶ宿ニ付	拾ヲツ、	右同断
十五ツ、	一大坂焼火鉢	右同断
〔ツ、	御泊壱ヶ宿ニ付	右同断
一木箸	壱ヶ宿ニ付	右同断
三百前ツ、	御泊三ヶ宿	右同断
一蠟燭	「」懸「」	右同断
一筵	御休泊六ヶ宿	右同断

御屋壱ヶ宿ニ付

〔 〕

一鉄火鉢

壱ヶ宿ニ付

百ツ、

一歎黒壺

壱ヶ宿ニ付

六升入三ツ、

一ふきん布

壱ヶ宿ニ付

四丈ツ、

一中晒

壱ヶ宿ニ付

一寝具座

壱反ツ、

一木枕

壱ヶ宿ニ付

一百枚ツ、

一木枕

壱ヶ宿ニ付

一百ツ、

一茶碗

壱ヶ宿ニ付

三百ツ、

一豆腐串

百本ツ、

右同断

一大庖丁

壱ヶ宿ニ付

右同断

一差身初身小庖丁

壱ヶ宿ニ付

右同断

一小薄刃

壱ヶ宿ニ付

右同断

一拾五丁ツ、

壱ヶ宿ニ付

御泊三ヶ宿

一まるはし

壱ヶ宿ニ付

右同断

一白木三方

壱ヶ宿ニ付

御休泊六ヶ宿

一八ツツ、

百ツ、

一土五徳大小

御泊壱ヶ宿ニ付

一せつかい

壱ヶ宿ニ付

五拾本ツ、

右同断

〔 〕

右同断

一右同断

壱ヶ宿ニ付

右同断

一下駄

右同断

鼻緒共

壱ヶ宿ニ付

百足ツ、

〔 〕

右同断

一右同断

壱ヶ宿ニ付

右同断

一右同断

壱ヶ宿ニ付

壱斗五升ツ、

一熨斗

壱ヶ宿ニ付

八わツ、

一金銀水引

壱ヶ宿ニ付

百わツ、

右本陣御手当ニ相用ひ候分

一和田半切

壱ヶ宿ニ付

弐千丁ツ、

一白味噌

右同断

御泊壱ヶ宿ニ付三貫目ツ、

右同断

御昼壱ヶ宿ニ付壱貫五百目ツ、

右同断

一柳箸

右同断

壱ヶ宿ニ付
三百ぜんツ、

右同断

一醤油

御泊壱ヶ宿ニ付三斗ツ、
御昼壱ヶ宿ニ付壱斗五升ツ、

一上酒

御泊壱ヶ宿ニ付武斗ツ、

御昼壱ヶ宿ニ付壱斗五升ツ、
一塩梅酒
御泊壱ヶ宿ニ付武斗ツ、
御昼壱ヶ宿ニ付壱斗五升ツ、
一松阪炭
壱ヶ宿ニ付式貫目ツ、
右同断

一塩梅酒
御泊壱ヶ宿ニ付武斗ツ、
御昼壱ヶ宿ニ付壱斗五升ツ、
右同断

一塩梅酒
御泊壱ヶ宿ニ付武斗ツ、
御昼壱ヶ宿ニ付壱斗五升ツ、
右同断

一株桐等
壱ヶ宿ニ付拾本ツ、
右同断

一大砂鉢
壱ヶ宿ニ付十五ツ、
右同断

一大砂鉢
壱ヶ宿ニ付十五ツ、
右同断

一鉄漿
壱ヶ宿ニ付五升ツ、
右同断

一中抜草履
壱ヶ宿ニ付五升ツ、
右同断

一中抜草履
壱ヶ宿ニ付五升ツ、
右同断

一柄杓大小
壱ヶ宿ニ付
右同断

一七輪大小
壱ヶ宿ニ付
右同断

一大十本
小十本 ツ、
右同断

一大十本
小五ヲ ツ、
右同断

一鐵木
壱ヶ宿ニ付
右同断

一大十本
小十本 ツ、
右同断

一有明油

壱ヶ宿二付

三升ツ、

一燈心

壱ヶ宿二付

五拾わツ、

一味噌越いかき

壱ヶ宿ニ付

拾ヲツ、

一大火箸

壱ヶ宿ニ付

拾五対ツ、

右者本陣御入用「」分

右同断

右同断

御泊三か宿

右者今般 和宮様御下向之節、私共宿々江御休泊被 仰付承知奉
畏、其節御入用之品々御先振ニ引付、當用ニ取調御願奉申上候間、
弥御治定之儀者御賄御代官様より御触申至來次第御注進旁御願可申
上候次第、最早御日間も無御座、御差支之儀心配仕候間、前以取
調御願奉申上候、何卒右御聞済被成「」様仕度奉願上候、
已上

鵜沼宿

本陣代

野口定兵衛

太田宿

本陣

福田太郎八

酉

九月

已上

御嵩宿

本陣代印

平田弥三郎

大湫宿

本陣

保々市郎兵衛

大井宿

本陣代印

高木善右衛門

中津川宿

本陣代印

森松次郎

弓場勘三郎様

御陣屋

御下向ニ付上り下り之節共御本陣御見分掛り

御公役御徒目付

望月翁三郎様

御小人目付

菊池藤三郎様

御添番

西尾斧太郎様

外ニ 大勢様有之

御家作事方鵜沼宿本陣掛り

初下「」

加藤□右衛門様

御作事奉行

五味新左衛門

川崎加右衛門

下奉行

松下六三郎

服部良右衛門

上下往返 岩田市三郎

御触写

此度 御下向ニ付御休泊并御小休ニ相成候宿村本陣向致見分、繪
図面江御締附等相達候通、手操事取補理皆出来相成候ハヽ、京地
往在々御徒目附木村李之助、吉本勇五郎江宿継を以申達候様、役
人中江可申通候、以上

御小人目附

菊池藤十郎

鵜沼宿より大津宿迄

宿村役人中

一御封状壹通

中山道関ヶ原宿

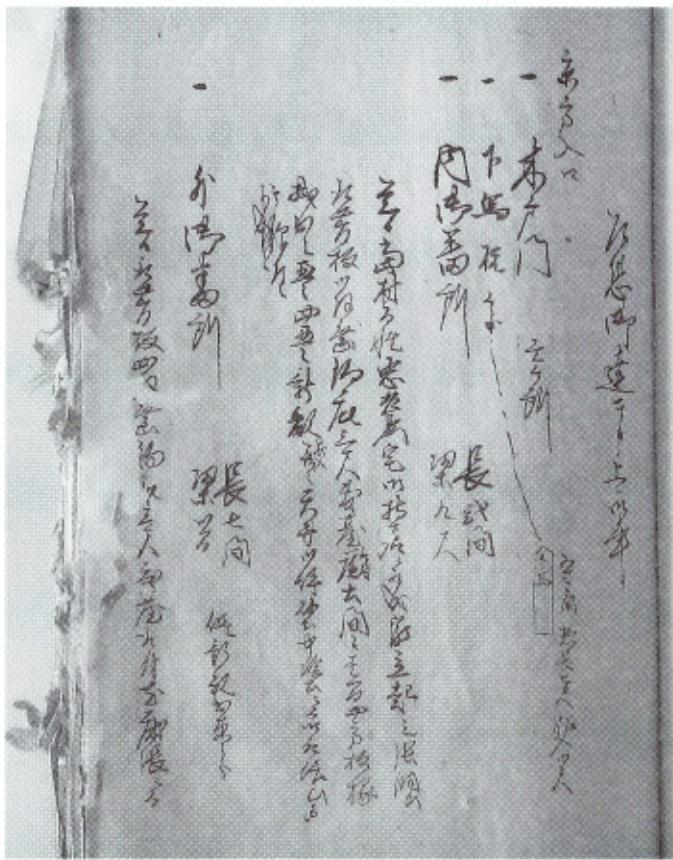
鵜沼宿

問屋役人中江

望月藤十郎様より御さし立

右ハ十月八日未中刻、当宿御雇休より御さし立ニ付、即刻加納
宿へ継送申候

乍恐御達奉申上候御事



京方入口

一木戸門

壱本……△下馬

五寸角 惣長七尺 根入式尺

是ハ取葺板四枚、垂釣庇三尺、式台取付、尤床張ニ而置敷入

方等も□差図□被 仰付候

二下馬杭

壱本

△下馬

五寸角

惣長七尺

根入式尺

一内御番所

長式間

梁九尺

江戸方入口

一木戸門

壱本

△下馬

五寸角

惣長七尺

根入式尺

是ハ当村百姓忠右衛門宅御持□ニ相成、家立起シ張調ひ取葺
板式枚、垂釣庇三尺、式台取付、庭、土間江壱間四方板縁掛
出シ、置四貲新規敷入、并ニ天井式坪壁中塗ニ而御取繕ひ方
相成付候成付

一外御番所

長七間

梁式間 但シ新規出来之分

右之通御座候付、別紙絵図面相添御達奉申上候、以上

酉九月

鶴沼宿 櫻井吉兵衛

問屋

桜井吉兵衛

弓場勘三郎様

御陣屋

(図有り)

〔文久元西年九月〕

和宮様御昼休ニ付御入用御道具等調帳

鶴沼宿 控

—

介間高附

長七間

低形板式幕

主事方政四 管領人三人御前大作主御長

御前御道具

一御台子 壱銭

右御道具

壱銭

一白木御三方長熨斗共 壱
一御煙草盆 五拾面

但小道具共 内 三拾面

寿明君様之節より相増申候

一御上草履 三足

「乍恐下ヶ札を以奉申上候、本文諸色増之儀者」

寿明君様御下向之節ハ御女中様五拾人程有之候処、
今般 和宮様御下向御女中様方百人余之由承知仕
尤御締切内外共 寿明君様御下向之節より余程御
手広ニ御取調御座候、右ニ准シ増調仕奉願上候、已上」

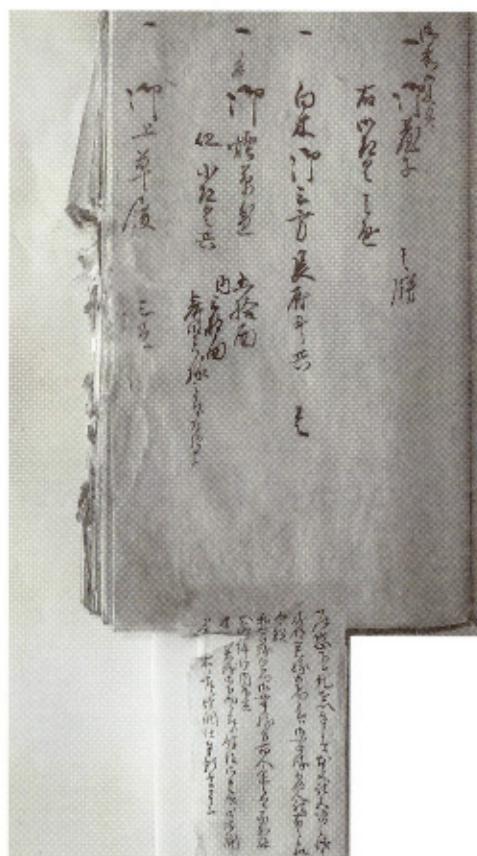
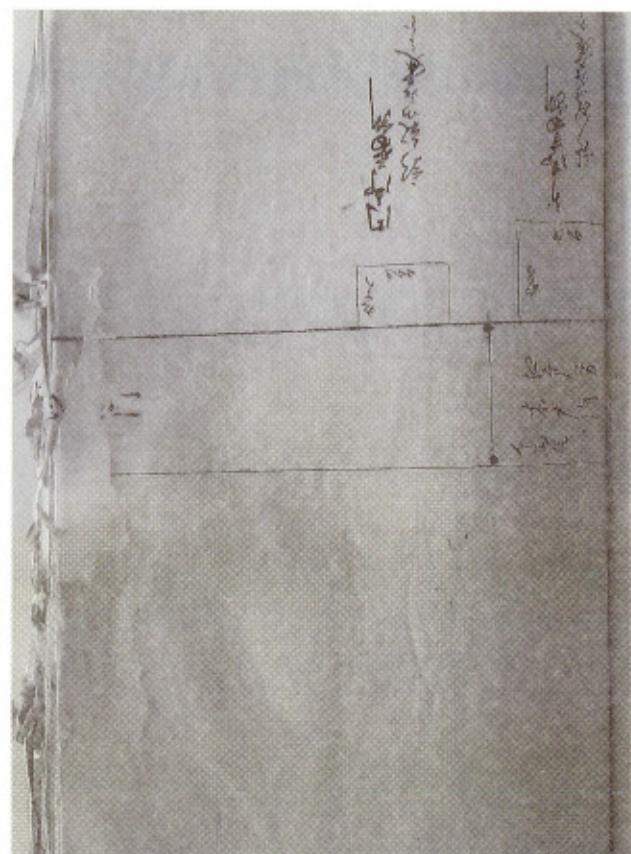
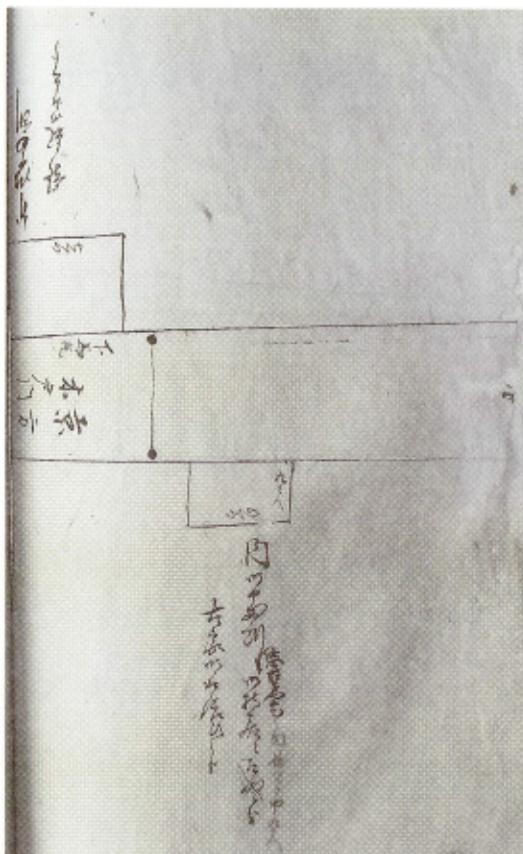
御次

一御台子 三銚

右道具三通 内式銚同断

御次

一中抜草履 五拾足



下ヶ札

内三拾七足同断

同

一屏風

御上之分

拾五双

一火鉢

○ 但火袋五德付差渡

式對

壹尺五寸程之内

御上之分

一屏風 但六尺 御昼休ニ而ハ 式双

唐紙張と有之候得共、金屏風ニ而御貸渡奉願上候

御次之分

一屏風 但六尺 御昼休ニ而ハ 四双

○ 但青紙ニ而も宜敷御触面ニハ御座候得共

是迄も金縁位ニ不被成下候ハ而ハ間ニ合不申候

右○印之分、大津御代官様并ニ多羅尾民部様より御触御座候
分ニ御座候、尤御差掛り不足仕候節者迷惑仕候間、壹倍増ニ
御取計奉願上候

御次分

一火鉢

四拾

内式拾同断

一棕櫚等しゅうら

拾本

一中抜草履

此分宿方ニ而取賄申候 内七拾足增同断

一奉書紙

此分請負之者より御返し置可被下候、以上

一白木三宝

同断

一水引

同

一白木状箱

同

一伽羅油

同

一墨筆

同

一極上杉原紙

同

一上直紙

同

一上半切

同

一白粉

同

一紅粉

同

一元結

同

一羽根楊枝

同

一ふしの粉

同

一ふきん麻

此分宿方ニ而取賄申候

一極上煙草

請負人より此分同断

上々

一膳椀皿猪口共

三百人前

内百人前金縁 但百五拾人前増

一大皿鉢

拾枚

此分宿方ニ而取賄申候

一食次湯次

四拾

一汁次

三拾

内 弐拾増

一通ひ盆

弐百枚

内 六拾増

内式拾五枚ハ宿方ニ而取賄ひ申候

一大釜

拾四

内 八ツ増

内式ツ宿方ニ而取賄申候

一五徳大小

三拾

内 拾五増

内十ヲ宿方ニ而取賄申候

一切溜

四拾

一摺鉢 但シ摺子木共 拾ヲ

内 弐拾増 同断

宿方ニ而取賄申候

一石臼 但すいの共 五ツ

同断

一柳箸 請負より

御膳米

一極上白米

是ハ宿方ニ取賄申候 四斗

一上白米

三石

同断 内 弐石増

一上々白味噌

三石

請負より

一上々塩

是ハ宿方ニ而取賄申候

一上々酢

請負

一醤油

同断

一上々酒

同断

一塩梅酒

同断

内 弐拾増

一魚鳥其外御料理物

同断

一薬罐

四拾

内 弐拾増

一茶吞茶碗

三百人前

此分宿方ニ而取賄申候

一高茶台

弐拾ヲ

一平茶台

拾

此分宿方ニ而取賄申候
一鉄漿

内 五升程

此分宿方ニ而取賄申候
一大火箸

弐拾前

此分宿方ニ而取賄申候
一傘

内 拾前増

此分宿方ニ而取賄申候
一下駄

内 七拾本増

同断

一薄縁取

五拾枚

同断

内 三拾枚増

百五拾枚

内 百枚増

一わら草履

百足

内 五拾足増

一わらじ

百足

一塗さじ

内 五拾足増

此分宿方ニ而取賄申候
一貝さじ

内 五拾足増

此分宿方ニ而取賄申候
一柄杓大小

内 五拾本

此分宿方ニ而取賄申候
一荷ひ桶

内 拾三本増

此分宿方ニ而取賄申候
一水溜桶

御賄所

内 五拾本

此分宿方ニ而取賄申候
一同

内 五拾本

此分宿方ニ而取賄申候
一川砂

内 五拾本

此分宿方ニ而取賄申候
一七輪大小

内 五拾本

此分宿方ニ而取賄申候
一米揚いかき

内 五拾本

此分宿方ニ而取賄申候
一筵

内 六ツ増

一魚串

式百本

一菜箸

此分同断

式拾前

一てつき

此分同断

拾本

一台十能

三ツ

一十能

五ツ

一土瓶

四拾

一油〔味〕「ろうそく」

右之内式拾相増申候
是ハ宿方ニ而取賄申候

〔三升いり〕

一炭薪

イセ炭五俵

カタ炭十八俵

一伊勢炭

五俵

宿カタニ而取賄申候
〔合意〕
二松明

百五拾束

同断

一馬上提灯

式拾張

此分宿方ニ而取賄申候

一給仕人

三拾人

一上勤之者

袴着用

同断

一下働之者 三拾人

右之内十式三人程料理心得候者
名古屋より御廻シ可被下候、以上

〔是より以下之分御作事方より御出来分〕
一御膳水桶割蓋鋤付 壱荷

一御膳水桶割蓋杉柄杓 壱本

御作事方

一同柄杓 壱本

一御茶水桶割蓋杉柄杓 壱本

同

一御盤立

一御椀洗桶

一御米かし桶

一中俎板

同

一手桶割蓋付

同

一中半切

同

一大半切五

代十式匁ツ、

一水溜桶大柄杓添

同

一釣瓶	同	一御次米かし桶	同
一大柄杓	同	一手拭懸挾竹共	同
一大柄杓	同	一手拭晒木綿	同
一膳棚三段付	同	一湯溜桶蓋付	同
一大俎板	同	一水溜桶	同
一燒物大鉢	同	一手桶柄杓添	同
一大流し	同	一鐵砲台	同
一水漉	同	一荷ひ棒	同
一御手拭付杉柄杓共	同	一足洗たらい	同
一御手拭掛挾竹共	同断	一釣台棒共	同
一御手拭晒麻共	同	一番手桶流シ板共	同
一銚棒台共	三組	一銚半切	

一炭斗 三拾

右之内式拾ヲ相増申候

右ハ 和宮様御下向ニ付、当宿 御昼休被 仰付候処、前頭之通
御備仕候積り、付而ハ右品々御貸渡し被成下置候様仕度、此段御
達旁奉願上候、以上

鶴沼宿

本陣

桜井吉兵衛

御嶽宿

本陣

野呂恒助

大井宿

本陣

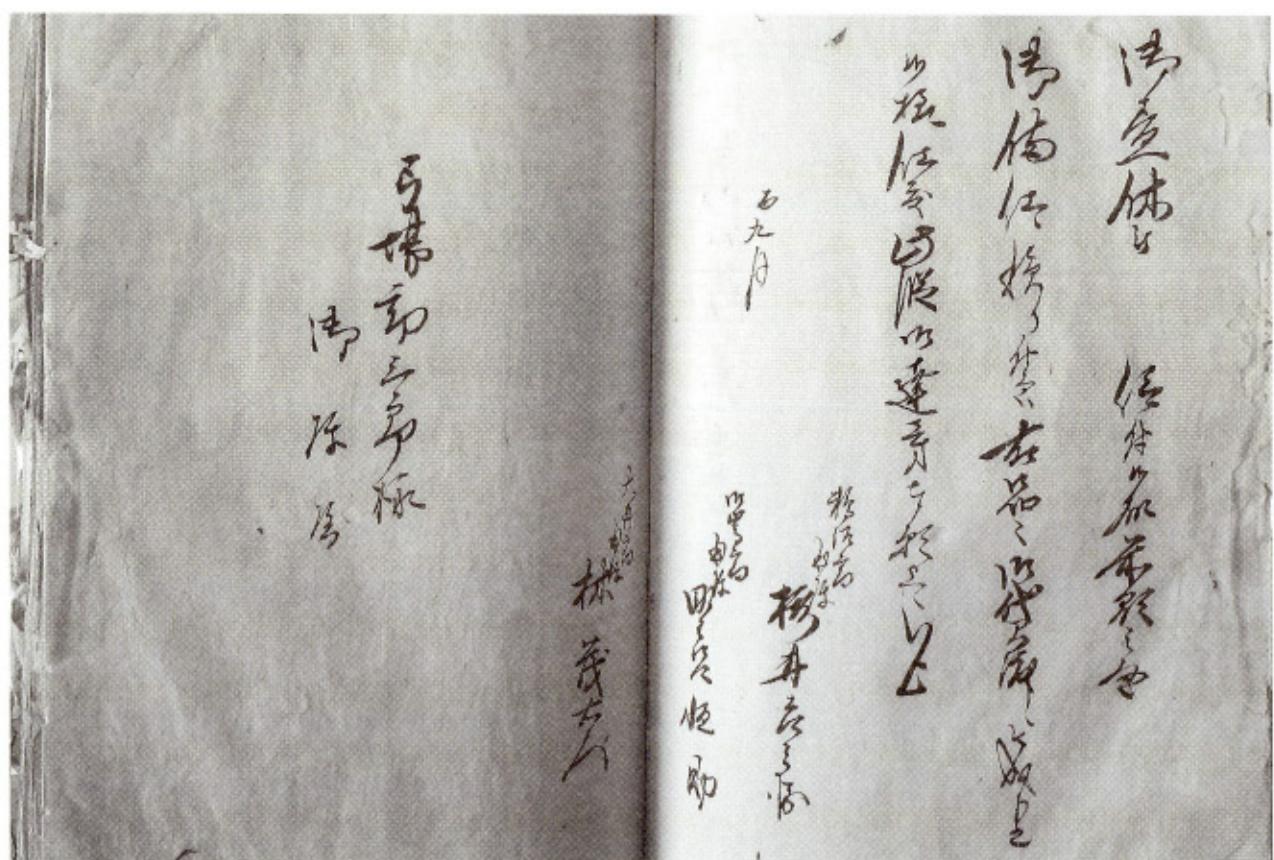
林茂右衛門

弓場勘三郎様

御陣屋

和宮様御下向之節、縁人馬之儀御警衛之御役々ハ勿論、御用所送

り込人馬并ニ諸掛り御役々人馬之儀ハ、他領助郷江ハ難申付、木
曾路ニ而ハ更ニ手明之者無之候付、惣而通シ人馬ニ而贊川宿迄持
通シニ致度旨、山村家より其筋江達ニ相成候付、御警衛之文ハ右
達ニ不抱通シ夫馬相渡し候調ニ候徳候得共、右之外御手當筋ニ拘
り候出駅之御役々并御用物持人馬之儀、濃州地ニ而ハ宿々縁人馬
ニ而可間ニ合哉、一応致吟味弥右之通宿々縁立方行届候ハ、木
曾路宿々迄出駅等之輩江ハ通シ人馬相渡、濃州地宿々迄出駅之向
等ニ而ハ縁人馬相渡し方可然相見ヘ候間、右之趣を以通吟味勘弁



否早速可申出もの也

但シ此書付追而可返候

酉九月

右之通九月十八日太田御陣屋より被仰渡候、以上

一 襪ノ介サセ候事御座長毛方
榮立方

事御取次候

乍恐御達奉申上候御事

一 表門内左之方御同心御番所壱ヶ所

但シ長式間巾九尺新規出来

一同 右之方御与力様御番所壱ヶ所

但シ長壹間巾壱間、是ハ有来り古半候分

御取繕ひ御持居ニ相成申候

一 裏門内左之方御同心様御番所壱ヶ所

右同断

一 裏門外御徒番所壱ヶ所長壹間
梁壱間

是ハ新規出来

一 御公家様御詰席前之処両便所壱ヶ所

右同断

右之分御徒目付望月翁太郎様より御差団ニ御座候分由、御作

事御役人様より被仰聞候

一 表御門外御番所壱ヶ所 壱間四方

一 裏門并ニ御路地口引戸之処、口広メ式間開戸ニ相成申候、尤是迄に四尺之処壱間ニ相成申候

一 御開道ニ相成候御上段庭之処、泉水埋広メニ相成申候

一 御上段唐紙并ニ壁張付共、鳥子張ニ而金沙子ニ御差団御座候

右之分御目付神保伯耆守様御見分之節被仰付候御差団御座候

通御作事方御役人様被 仰付候

右之通ニ御座候、以上

御作事方御役所様より御出来ニ相成申候、依而此段御達奉

申上候、以上

鵜沼宿

本陣問屋

桜井吉兵衛

弓場勘三郎様

御陣屋

西九月

西八月廿八日

右之通今日御触至來仕候間、写取御達奉申上候、以上

追而此触書早々相返し承知之旨別紙
請書相添留りより宿送りを以山城役所

江可相返候、以上

上之分

一屏風 但シ六尺

御旅館ニ而式双ツ、

御昼休ニ而壹双ツ、

次之分

一屏風 但シ同断

御旅館ニ而三双ツ、

御昼休ニ而式双ツ、

青紙ニ而も其外□何ニ而も宜事

上之分

一火鉢 但

御昼休 共 式ツ宛

但シしかみ火鉢ニ而もわんど火鉢ニ而も有合之品ニ而火袋
差渡し、凡壹尺弐寸程之火鉢式ツ見繕ひ五徳添

右ハ今度 和宮様御下向之節御入用ニ候間、宿々おゐて用意可致
置者也

西八月廿八日 山城御印

豊後御印

中山道

板橋より

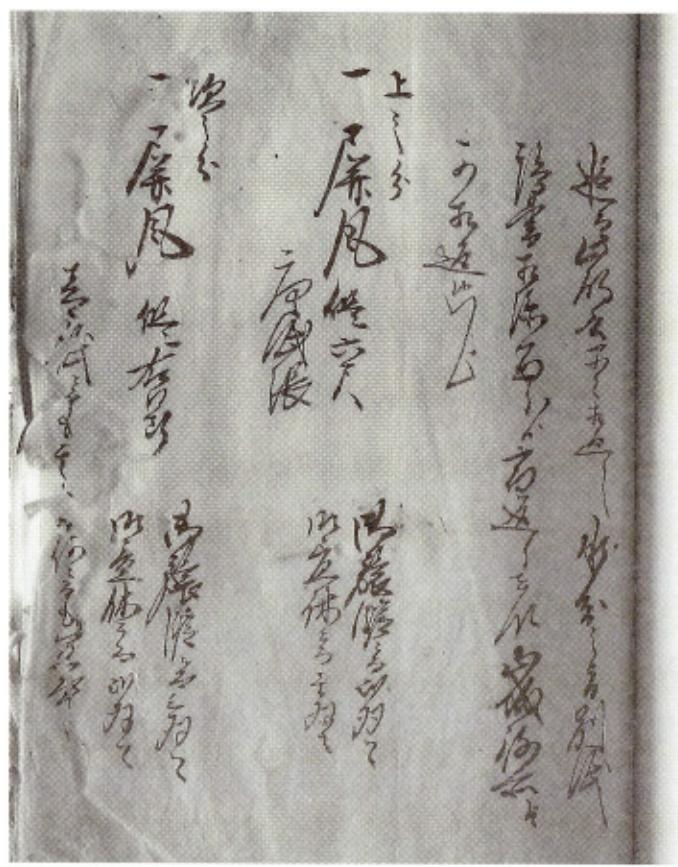
守山迄夫より

大津迄

右宿々

問屋

年寄



鵜沼宿

問屋

西九月八日

桜井吉兵衛

之近々御目付様初種々御役々様御登り御通行御座候、尤近日御登
り方々別紙認御注進奉申上候、以上

西八月廿八日

本陣問屋

鵜沼宿

野口定兵衛

午上刻

御作事方

御役人中様

弓場勘三郎様

御陣屋

乍恐内々御達奉申上候

今般 和宮様御下向ニ付西筋御他領御休泊宿々御本陣御修復向如
何相成候哉之趣承合候処、郡山様御領分并ニ大垣様御預り所并御

本領共御本陣御修復之儀ハ今般御用所^付杯之儀ハ 御姫君様江壱ヶ

所ハ勿論外ニ御局様□□申御方江壱ヶ所、御老女様江壱ヶ所

」ノ三ヶ所之儀ハ新規御取建ニ相成、外御湯殿御用所向等をも

夫々御修復ニ而被 仰付候、御ノ切内之儀も尋合候処、京方御女

中五拾人様程有之、夫々并ニ江戸方御女中様も右ニ准シ御人數有

之候事ニハ候得共、未^{いまだ}タ内江戸方御女中之儀御人數聞申ニ付、相

分り次第申通辞呉候様申參候、尤右之御人數ニ付而ハ、御荷物凡

御長持杯も御ノ切内江右御人數ニ応シ候而ハ式拾棹程、外ニ御両

掛等をも夫々泊込ニ相成候由申間候間、今般之儀「

余程御手広ニ不被成下置候而ハ御当日御差支ニも相成候も難計、

若一御混雜等仕候而ハ、御本陣おるても迷惑仕候間、此段御賢察

被成下、御役所様おるて御聞合被成下候様奉願上候、尤右大造ニ

准シ御下宿杯も式百廿五軒程御入用、右之内式百坪より五拾坪迄

之処、七八拾軒御入用ニ而、此節當方おるてハ專御下宿御建増取

調中ニ付、右之段御勘定所ニ而も乍恐御聞合被成下候様仕度、依

右同文言如此、十九日鵜沼宿泊り

証文人足八人

吟味役頭取

一尾崎儀平様

支配勘定

一木全友右衛門様

一加藤養太郎様

同

上下拾人

一宮川初藏様

同心

証文人足十七人

右ハ 和宮様御下向「

二而「

」二而「

御作事奉行

一服部源三郎様

「 李頭代奉行手付吟味方兼
廣瀬弥三右衛門様

上下六人

証文人足八人

大代官手附

一會田重兵衛

上下式人

証文人足三人

右同言文十九日鵜沼泊り

一御代官様御先触壱通

ノ御先触四通

右ハ八月十九日五ツ「」宿より請取早行太田江

御先触壱通

往還方

奥村辰介

木村代次郎

上下五人

人足八人

十九日鵜沼泊り

右先触八月十九日未下刻小牧より請取申候

張付師方

入札注文

一御上段入側御次向共張付有來、上ハ張捲取下張取繕ひ請張上ハ

張入念張立方

拾坪ニ付極上間ニ合ニ而紙手間共

代五拾五匁 但小キ間有之候積り

一同内廻り張付有來上ハ張捲取、下張取繕ひ請張上ハ張入念張立

方

拾坪ニ付 小「」江御張紙手間共

代五拾八「」

三六襖骨縛より「」 箕押□請張形紙

上ハ張新規張立

但九尺四本立式本立共、三六廻シニ取計候事

片面壱本ニ付

代四匁式分

一同襖有來上ハ張捲取、下張取繕ひ請張形紙上ハ張

但同断

片面壱本ニ付

代式匁六分

一三六障子同明ル障子新規張立并張かへ共

但同断

壱本ニ付 書院紙ニ而

代八分五厘

但古障子を壱匁

一壁上張付打付張より請張形紙、上ハ張新規張立方

拾坪ニ付

下張箕三べんミの押え請張、
代「」 上張「」 共壱坪ニ付

一壁腰張高式枚「」共

壱間ニ付 紙品六十目ニ而手間共

代壱匁四分五厘

一同断高壱枚半、新規張かへ共

壱間ニ付 紙品六十目ニ而手間共

代壱匁式分

一張窓高壹尺より式尺迄、長六尺より廻シ張立方

代七分々、

右ハ可入形紙障子紙ハ、□所おるて相渡、都而下張紙、糊持出し
之損入札可致事

八月

御買上直段

五尺繩

但壱把拾丈程

代銀拾壹匁

一遣ひ繩

壱束

但壱把五丈五尺程

代銀壹匁五分

拔繩

目

一明俵

「」

代銀式匁五分

一薬

壱貫目

代銀式匁五分

一中ぬり筋

代銀七分五厘

一振石灰

御買上直段

代銀式拾五匁

一黃土

代銀五匁

壱貫目

一布苔

代銀拾式「」

紙筋

「」

一苧筋

壱貫目

代銀五匁

壱貫目

「切紙挿入」

左官方 入札注文

一壁ちり疵等中塗ニ而繕ひ、黄土上ハ塗壱坪ニ付

代式匁五分

一同用上ハ塗壱坪ニ付から塗

代三匁式分

同白土上ハ塗壺坪ニ付

代式匁式「」

「^{四匁} 式匁式分 からぬり」

四匁五分

すり

「」

「□來白土」 「上ハ塗壺坪ニ付

代四匁

一中塗仕直シ壺坪ニ付

代式匁五分

一木摺下地ニ懸苧漆喰下附白土上ハ塗り壺坪ニ付

代五匁

一同下地ニ懸苧中塗より黃土上ハ塗り壺坪ニ付

代四匁五分

御買上直段

一七寸釘 百本 目方三百五十目程

代銀八匁五分

一大六寸釘 百本 目方式百四拾目程

代銀五匁五分

一六寸釘 百本 目方百六拾目程

代銀三匁五分

一五寸釘

代銀「

代銀「

一本傍ナ地然草塗喰下附白土上塗壺坪

代四匁

一四寸釘 「」 四拾式目程

代銀壺匁五

一三寸釘 百本 目方式拾式目程

代銀九分

一式寸釘 百本 目方拾式目程

代銀七分

一壹寸五分釘 百本 目方拾壹目程

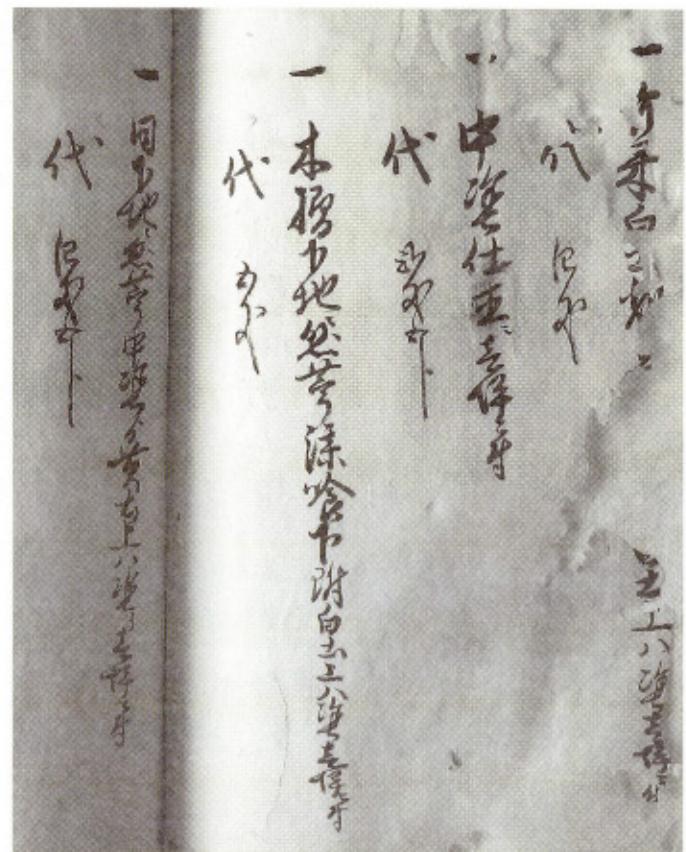
代銀六分

一板付釘 千本 目方七拾目程

代銀五匁

一四寸頭巻釘 百本 目方七拾目程

代銀壺匁六分



一三寸頭巻釘 百本

代銀壹匁弐分

一式寸頭巻釘 百本

代銀壹匁

一四分一釘

代銀「」

一五寸折合釘 百「」

代銀一匁八分

一大付坪 式ツ

代銀五分

一中付坪 式ツ

代銀三分

御買上直段

榦松式間五寸角位已下之挽木小割物共、式間壹寸才ニ付

榦無節ニ而代銀 九分

同小節ニ而代銀 六分

同節物ニ而代銀 四分

松節物ニ 「 分

一榦壹間
山挽
壹坪ニ 「 上

壹坪ニ 「 上

無節ニ而代銀 九匁

小節ニ而代銀 六匁

節ニ而代銀 四匁

同 壱間巾八寸位以上
壹坪ニ付 五分板

壹坪ニ付

巾八寸位以上
五分板

無節ニ而代銀 拾武匁

小節ニ而代銀 九匁

節ニ而代銀 七匁

一壹間六分板

壹坪ニ付

松小節ニ而代銀 六匁

同節ニ而代銀 五匁

杉小節ニ而代銀 「」

同節 「」

一杉丸太

拾本ニ付

三間ニ而代銀 四拾匁

末三寸五分より式寸迄

式間半ニ而代銀 四拾五匁

末四寸より三寸迄

式間ニ而代銀 三拾三匁

末四寸より式寸位迄

壹丈ニ而代銀 式拾七匁

末式三寸位

壹間ニ而代銀 拾六匁

末同断

一杉之類取葺板

拾間詰拾束二付

代銀 四拾匁

一杉木極

壱間二付

代銀 「」

一杉大極拾挺

代銀 拾五匁

一杉中極拾挺

代銀 拾三匁

一同並極拾挺

代銀 拾壹匁

一同大貫拾挺

代銀 拾三匁五分

一同中貫拾挺

代銀 拾壹匁五分

一同並貫拾挺

代銀 「」

一杉山貫拾挺

代銀 六匁五分

一松杉壱間六分板

代銀 拾八匁

拾坪日數十日二付

一同壱間五分板

拾坪日數十日二付

代銀 拾五匁

一杉之類取葺板

拾間詰拾束日數十日二付

代銀 式拾五匁

一杉丸太之類

拾本二付日數十日

三間ニ而代銀

末三寸位 式拾壹匁

式間半ニ而代銀

末三寸位 式拾壹匁

末同斷

壹丈ニ而代銀

末武三寸位 拾貳匁五分

壱間ニ而代銀 七匁五分

末同斷

未同斷

〔表紙〕 御公役様より之案文写

大島東一郎様

梶山米太郎様 御下り

文久元年

本陣

西八月十一日

桜井吉兵衛

右者此度 和宮様御下向ニ付、其宿々御休泊本陣向修復建繼之
箇所并ニ御小休所ニ可相成宿村共、其外橋之渡船等之場所、別
紙「」之通り取調置、其筋「」路ニ付我等共儀茂

一同凡同様割合之通り相越候間、通行之節差出可申候、尤法道

筋懸り役々見分差図之趣ニ引付取調差出可申候

一御小休所ニ可相成候間之村々江者、此書付順達いたし候而者、延日相成候ニ付、前宿役人より申達取調方心添可有之候

一蕨宿・板橋宿之儀者鴻巣泊り江向差越可申候、此書付早々順達於「」我等両人之内江可相返候、以上

御普請役

西

八月

大嶋東一郎

梶山米次郎

凡泊割

八月十七日

守山

同十八日

鳥居本

同十九日

赤坂

同廿一日

鵜沼

同廿二日

細久手

同廿三日

落合

同廿四日

須原

同廿五日

藪原

同廿六日

細久手

同廿七日

下諭訪

同廿八日

長久保

同廿九日

追分

九月朔日
同二日

蕨 鴻巣 本庄 安中

〔用紙半紙ニ而綴方此通書上案文〕

何宿
村

何宿

歟か

何之誰御代官所

何之誰領分

何之誰知行

何宿

一御泊

但

何宿歟

御小休所迄

何村

道法何里何丁

右者本陣誰宅御入用歟、又者領主歟地頭歟、入用ニ而御座所向修復歟、新規歟、其外賑付「」建具、豈替并御湯殿・御用場等出来之有無云々

何之誰御代官所
何之誰領分
何之誰知行

何国何郡

何宿

一御昼休

但

何宿 御小休所之

何村

何里何丁

何宿

何之誰御代官所
何之誰領分
何之誰知行

何国何郡

何宿

右者本陣誰宅外云々右同断

何之誰御代官所
何之誰領分
何之誰知行

歟

一御小休所

但 何宿歟 御宿泊

同村

御昼休

御小休所迄何里何丁

何国何郡

何宿

同村

歟

一御昼休所

乍恐御尋ニ付御達奉申上候

尾州御領

美濃國各務郡

鵜沼宿

右者御小休所「」誰宅御入用歟、他領歟、入用ニ而御座所

向御用場等此節普請申歟、又者出来相成建具張付置替「

」残居候哉也

右ハ御本陣桜井吉兵衛宅 御座所向ニ而其外御ノ地内外襖建具置替并ニ御湯殿御用場、都而今般ニ不抱御下向節々御領主様より御入用被下置候、尤未タ御休泊之儀も御刻当ニ不相成候間隙与御治定御休「」ニ付先々御昼休之御目当ニ而当月十五由尾州此頃御領主様御役人御作事御奉行様初御一列御衆中様御見

夫迄ハ式拾四丁

何之誰御代官所
何之誰領分
何之誰知行

歟

何宿之間

一何川
仮橋
本橋
歟

何国何郡

何宿

歟

打

渡船

但 船長何程巾□□

右者御入用又者□地頭入用歟ニ而仮橋・本橋・御渡船之分御船
新規相建歟

一打

一
御小休所

尾州御領
美濃國各務郡
鵜沼宿

右之外、道造所之儀難所等ニ而山道切広有之場所者、一打
書ニ相認メ差出可申候事

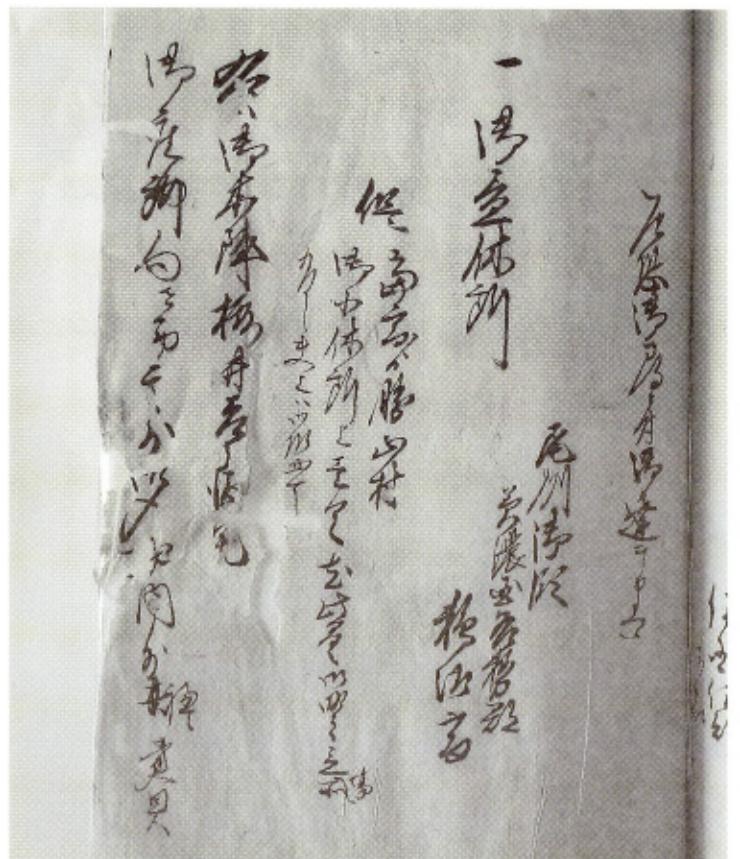
何之誰御代官所

何之誰領分

何之誰知行

何国何郡

年号 月日



分有之之上、夫々御申渡シ之儀も有之、御湯殿御用場、是ハ新規
御取建ニ相成候筈ニ御座候、并ニ振通御座所并ニ御次向等ハ天井
初夫々御置替障子唐紙等迄も御仕替被遊「」御奇麗
ニ相成候由ニ被仰付候得共御座候得共、未タ御修復向々御取掛り
無御座候得者ニハ相成不申候得共、近々御取掛り被遊候由ニ□□
右御見分良被仰付候間、此段御達奉申上候、以上

尾州御領

美濃国各務郡

鵜沼宿問屋本陣兼

桜井吉兵衛

年寄 坂井伝吉

文久元西

八月何日

御普請役

大嶋東一郎様

梶山米太郎様

乍恐御達奉申上候

右ハ今般 和宮様御下向ニ付、道中御取調長門守様初普請役様共
御帰府之節、別紙案文ニ候付別紙之通書面之通相認御「」申
上候積り御座候、依之御普請役より之案文之写壹通并ニ本陣問屋
年寄共より御普請役様江之達書面壹通相添候間、□達奉申候、以
上

上

酉

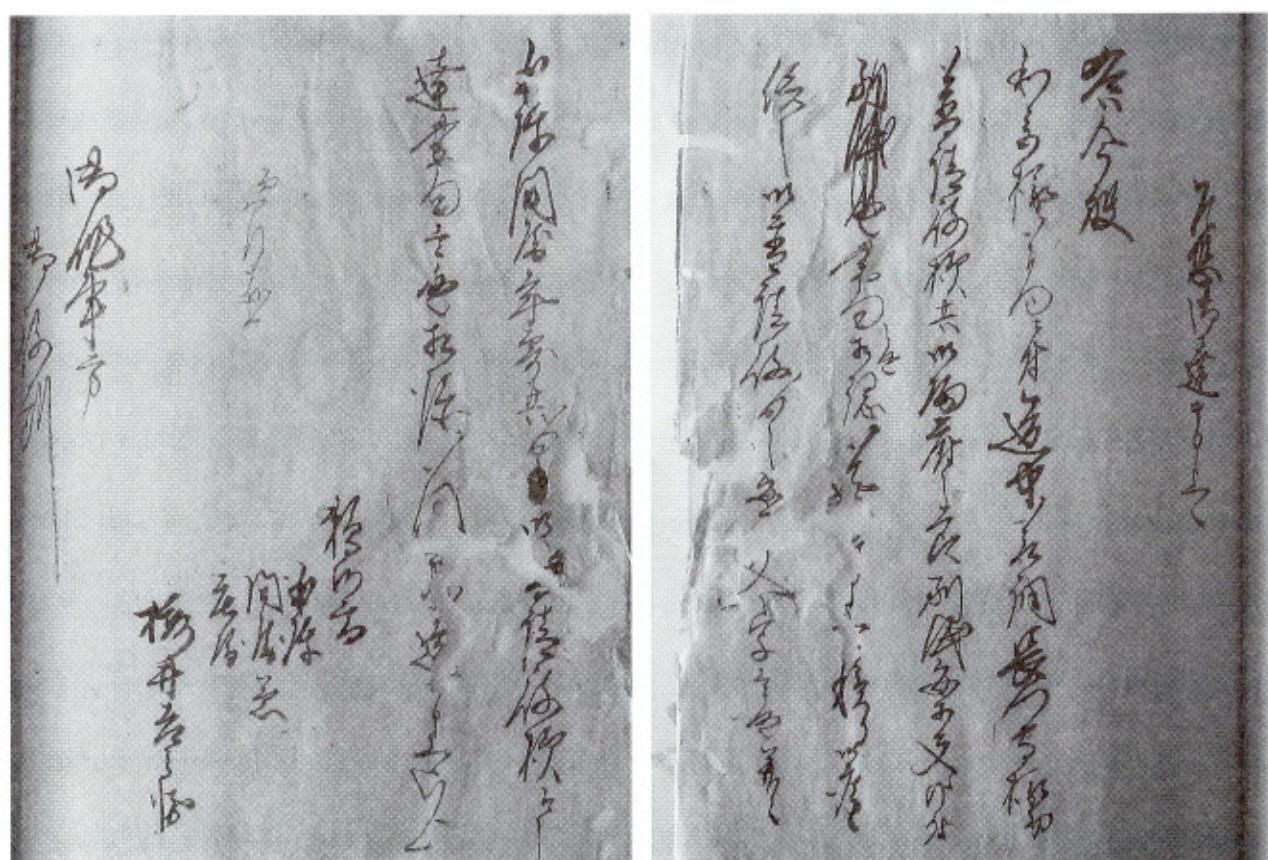
八月十四日

鵜沼宿

本陣

問屋 兼

桜井吉兵衛



一寿明君様 何

一高何程

一但高無之候ハ、上納米等

一助郷高

但御料私料村数之訳

一天保度人馬寄セ高

一嘉永度同断

宿長何町

一惣家數何軒

内

旅籠屋 何軒

商ひ屋 何軒

茶屋 何軒

百姓家 何軒

寺院社家 何軒

一本陣・脇本陣・問屋、年寄姓名

畠敷 何程

板間 何程

土間 何程

一脇本陣建坪 何程

内 脇

内訳 同断

一御膳水誰所「

一御□場何戸「

」何程

写所

長

一橋 写

一御幕張場

巾

下り方

登り方 之訳

何寄より何町

一持有無

一立場茶屋 何軒

一名所古跡 何軒

一人數右 何程

内 何程 男

何程 女

何程 寺社等

御勘定奉行

成瀬加兵「

御勘定奉行代

御勘「」

御作事奉行代

竹中左兵衛様

伊藤彦九郎様

梶田庫次郎様

支配勘定組頭

木全友右衛門様

五味所左衛門様

御作事奉行

御作事奉行

五味所左衛門様

御作事下奉行

松下六三郎様

御大工見習

里村定八郎様

御作事調役

岩田市三郎様

手附吟味方

木全弥「」様

手附場所立合役

手付吟味方出役

寺尾半「」

同

加藤唯十「」様

御大工頭領代

手附吟味方兼

広瀬弥三右衛門様

御大工仕埋

伊藤鍬吉様

同

近藤金十郎様

御中間

壱人

我等并ニ支配勘定組頭勝川松次郎、支配勘定森祐一郎、地方御勘定奉行同心山田竹次郎儀御用済之上、明十日六ツ時大湫宿出立帰府いたし候条、左之宿々おるて証文人足十五人休泊宿おる「」上下拾壱人分支度手当いたし「」候上、所々順達小

牧宿より「」

八月九日 森久次郎

丑中刻

十日昼

伏見宿

同日泊

太田

十一日昼

鶴沼宿

同日小食

小牧

成瀬加兵衛儀、宿々本陣等見分ニ付、休泊割替頃日先触差出置候處、見分之模様有之候付左之通、猶又休泊割替候間、此段承知いたし、其余之儀ハ諸「」相触「」心得候
右之趣承知「」
て「」

勘定「」

梶田庫次郎

竹中左兵衛

八月九日

大湫 同日泊り 細湫

八月十日昼

御竹 同日泊り 太田

十一日昼

但宿「」

十二日昼

鶴沼

上下「」人 但シ五味「」初一列

和宮様御下向ニ付、宿々本陣見分之儀、左之休泊割替相越候条、人足支度「」可致事

但宿「」

八月十日昼

同日泊り

大湫宿

細久手

同十一日

同 同

御竹宿

太田

同十二日

同 同

鵜沼宿

小牧

太田御陣屋触写

和宮様御下向之儀、中仙道江御治定相成、御発輿御頃合來ル十月上旬中旬之内与被仰出候、就夫御領分宿々を初御役筋取計方之儀、惣体嘉永二酉年 寿明君様□御下向之節「」目當ヲ以可取計

公辻「」御「」

「伝馬被付」□桐油□之諸色手当方を初、繼人馬備方、其餘井尻村より先下り方高□之内道橋籠雜破損之場所等、夫々

昼夜相掛り早急書付、取調出来次第片付も早々心得候、宿役人共おるても遂談判、御手当向火急ニ不取計候而ハ、心付廉々取調可申出候 御発輿御頃合最早間も無之儀ニ付、呉々も「」

「□之内ニハ必「」達「」

八月十日 太田陣屋

鵜沼宿

太田宿
伏見宿

御嶽宿

右宿々

問屋

(以下史料の損傷甚しく解読不可)

猶々御頃合之儀、関東江相達次第早速道中奉行初追々中仙道筋上京、宿々見分も有之、且御同勢一時ニ相成候而ハ混雜いたし、繼人馬等も差支可申ニ付、供奉□軍ハ 御発「」日より「」日ニ割合、追々ニ発「」ハ都而「」中おるて「」無之分□ヶ東海道江御廻し相成候旨、且御道中御日数之儀、い□□□々相分兼候得共、凡廿五日程之御見当ニも相聞候、此段為承知申通し候、以上右之通八月十日酉下刻太田より請取、早行太田江戻ス

人足 小牧ハ □□□

太田ハ □□□

赤坂宿役人聞合写

人足 □万人程

馬 「」

宿割帳一覧

史料番号		史料名	年代	西暦	備考
番号	枝番				
80		小笠原佐渡守様 御下宿帳	文久2年3月17日	1862	
81	1	仙石讃岐守様御下り御泊帳	文久2年3月26日	1862	
81	2	京都江御用 横瀬山城守御本陣入御下宿人數控	文久2年4月3日	1862	
82		松平右近将監様御下宿帳	文久2年5月7日	1862	
83		因幡中将様御下宿	文久2年5月14日	1862	
84		御下り方泊 新庄美作守様御下宿帳	文久2年5月17日	1862	
85		上り泊り 栄木主計助様御下宿帳	文久2年5月5日	1862	
86		彦根様 御昼夜宿組帳	文久2年6月13日	1862	
87		鶴殿鳩翁様 御宿割帳	文久3年3月	1863	番編成と人数と宿泊先の書かれた横長帳がともにとじられている、表紙：会所用 不用(異筆)
88		松浦肥前守様御下宿割帳	文久3年5月5日	1863	
89		二条御定番松平豊後守様室様御下宿帳	文久3年6月4日	1863	
90		松平豊後守様御旅ご割渡帳	文久3年6月5日	1863	
91		仙台様御家老片倉小十郎様御下宿割帳	文久3年6月16日	1863	
92		松浦豊後守様御下宿帳	文久3年7月20日	1863	
93		御泊り登り 小笠原左衛門佐様御下宿帳	子(元治1年)6月7日	1864	
94		黒田甲斐守様御泊り御下宿帳	元治1年5月17日	1864	
95		真田信濃守様御前日御当日御昼夜御下宿帳	子(元治1年)6月20日・23日	1864	「御登り 真田信濃守様御前日御下宿帳」「昼夜番割」「泊り人数代金書付帳」がともに綴じられている
96		土居能登守様御泊り宿割帳	元治1年9月15日	1864	
97		御下り 青山左京太夫様御下宿帳	元治1年11月19日	1864	
98		真田信濃守様昼夜宿割	元治2年2月25日	1865	
99		日光御神忌御参向ニ付尾州御警衛御役人様宿割帳	元治2年3月18日	1865	
100		宿割帳綴り			「覚(宿割覚)」「京都見廻り役御組頭御登り高久半之介様中嶋鉢之介様并ニ御組中上り方之分御昼夜御下宿帳」がともに綴じられている

宿割帳一覧

史料番号		史 料 名	年 代	西暦	備 考
番号	枝番				
101		五拾人頭本目長門守様同断鈴木伊兵衛様 御昼夜御下宿帳	元治2年5月19日	1865	
102		高遠御家中御泊り旅籠帳	慶応1年5月23日	1865	
103		土井能登守様御下宿帳	慶応1年閏5月13日	1865	
104		一橋様御用曲渕甲斐守様御下宿帳	慶応1年閏5月15日	1865	
105		三浦玄蕃頭様御下宿割帳	丑(慶応1年)5月28日	1865	
106		高遠宿割帳	慶応1年閏5月	1865	
107		度々木錢米代割渡し帳 別手組初いろいろ	慶応1年6月	1865	
108		仙石讚岐守様御下宿帳	慶応1年6月	1865	
109		有馬遠江守様養御妹尾下宿帳	慶応2年3月23日	1866	
110		忍家中松平下総守様御下宿帳	寅(慶応2年)6月	1866	
111		真田信濃守様御泊り旅ご割渡し帳	寅(慶応2年)8月7・8日	1866	「宿割帳(横長帳)」がともに綴じられている
112		御下り 松平能登守様御下宿帳	慶応2年10月14日	1866	
113		津軽越中守様御下宿割帳	4月23日		
114		御書院御番頭有馬阿波守様并御組とも宿割帳	5月19日		
115		大坂大御番組松平因幡守様并御組頭四方様御組式拾八頭様御預り御与力六方様御預り御同心拾七方様 御宿割帳	5月16日		
116		御警衛溝口主膳正様御藩中日数御下宿帳			
117		御雇い人馬書上等綴	(文久3年)	(1863)	「御雇人馬等書上」「二月晦日茗荷屋泊り」「秋月右京充様林大学頭様御下宿」「二月十九日御昼夜御奉行并ニ浪士方徒目付御小人目付御小下人頭并ニ御小下人御使番旦那御私家来斗り御置御役様共浪士御奉行下役様」「二月十九日御泊り御宿割帳」「御鉄砲方井上左大夫様同断田付四郎兵衛様并御組様方御數奇屋頭并支配向共」「御小将御組番頭様同御組頭様同御組五十方様御徒目付様御小人目付様御普請役様御昼夜割帳」「御上路陸地御供御書院御番頭様同御組頭様同御組御番衆五拾頭様御与力様御同心様御徒目付様御小人目付様御昼夜割帳」の8点の文書が一つに綴じられている

宿割帳一覧

史料番号		史料名	年代	西暦	備考
番号	枝番				
118		御私料方御休泊料メ出帳	慶応3年11月	1867	
119		若州御隠居酒井右京大夫様御下宿割書上帳	文久2年10月26日	1862	
120		木下備中守室様御下宿帳	文久3年4月9日	1863	
121	1	大久保出雲守様宿割			覚(人足覚)がともに綴じられている、121-1~6は横長帳の裏表紙で包まれていた
121	2	梶井宮様外寺家宰相ほか御通行覚	3月17日~4月1日		
121	3	覚書綴り			8点一綴り、「覚(人足覚)」「覚(木銭白米覚)」「羽太庄左衛門様小林甚六郎様竹林忠次郎様宿割」「人足書付」「覚(人足貨覚)」「水戸様百姓(旅籠宿泊人数)」「六月十七日御泊」「差上申木銭之事」が一綴りになっている
121	4	宿帳綴り			「宿割帳」「円三郎宿泊・松平権留旅籠代受取」「入用金額書付」「真田様御渡し帳昼夜宿割」の4点がともに綴じられている
121	5	御本陣着(宿割帳)			
121	6	宿割帳(本陣共13軒)			

編集後記

ここに各務原市史料調査報告書第三十六号として、『旧中山道鵜沼宿本陣・桜井家文書 III』を刊行することができました。本報告書には、「桜井家文書」の中から、文久二年（一八六二）十月の和宮の通行に関する史料を収録いたしました。十月二十七日和宮一行は、昼食・休憩のために鵜沼宿に立ち寄ります。そのために万端準備を整えるということが、記されている史料です。

この史料は『各務原市史 史料編 近世II』に、「和宮下向関係本陣留帳」という標題で、一部抄録されています。今回資料調査報告書第三十六号を作成するにあたり、史料の全文を収録しようと思いました。ただ残念なことに、この史料にはいたみが多く、史料保護の点からも全文を収録することはできませんでした。しかし収録した史料からでも、その準備の大変さはお分かりいただけると思います。また本報告書には、収録史料の内容から見て、史料の読み下し文は作成・掲載せず、本文中に読みがなを付けることになりました。ご了承ください。

本書の刊行により、幕末の激動の時代に生きた鵜沼宿の人々の様子を、古文書の中からうかがうことができると思います。この報告書を、皆様方の古文書や歴史の学習・研究にお役立ていただければ幸いです。

最後になりましたが、報告書の刊行に理解を示してくださいました史料所有者の桜井美保子氏と、史料の解説・解説に尽力をいただきました岐阜女子大学文化創造学部の辻公子先生に深く感謝いたします。

平成二十五年三月

各務原市資料調査報告書第三十六号

旧中山道鵜沼宿本陣桜井家文書 Ⅲ

平成二十五年三月

編集 各務原市歴史民俗資料館

〒509-0232 岐阜県各務原市鵜沼西町一一一六一三

発行 各務原市

〒504-8555 岐阜県各務原市那加桜町一一一六九
TEL 0581-383111-1146

印刷 山興印刷株式会社



各務原市図書館

114307192